

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	歯科衛生士概論			学年	1 年 52 期生
担当者				期別	前期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	2時間 × 15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科衛生士学校での勤務経験を持つ歯科衛生士が、歯科衛生活動のための医療倫理や歯科衛生士の役割について講義をする				
一般目標(GIO)					
本科目は、保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことや対象者のニーズの把握、倫理的視点かつ科学的根拠をもち歯科衛生活動を展開するために必要とされる専門知識や技術ならびに態度を身につける					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	1	歯科衛生士の活動	歯科衛生士の活動を説明し、歯科衛生士の職業に関心を持たせる
2		16	1	歯科衛生と健康	健康の考え方や歯科衛生と健康の関わりを説明する
3		16	2	歯科衛生活動	歯科衛生活動の対象者や歯科衛生活動の領域を列記する
4		23	2	歯科衛生の誕生	歯科衛生の誕生や日本の歯科衛生士の誕生について説明する
5	5	10	1	歯科衛生の歴史	歯科衛生士の誕生や歯科衛生業務の発展について歯科衛生士の教育と関係づける
6		17	1	歯科衛生活動の理論	歯科衛生活動のための予防の概念を述べる
7		24	1	歯科衛生活動の理論	歯科衛生の考え方や保健行動の理論を説明する
8		31	1	歯科衛生過程	歯科衛生業務において、歯科衛生過程を活用する意義を説明する
9	6	7	1	歯科衛生過程	歯科衛生過程のプロセスや構成要素を図示し説明する
10		14	1	歯科衛生士法と歯科衛生士業務	歯科衛生士法に基づく歯科衛生士業務について説明する
11		21	1	歯科衛生士法と歯科衛生士業務	業務独占、名称独占を説明する 歯科衛生士の役割、安全管理を説明する
12		28	1	歯科衛生士と医療倫理	倫理の必要性や医の倫理について説明する
13	7	5	1	歯科衛生士と医療倫理	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンドオピニオンについて説明する
14		12	1	歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生士の活動の領域・種類・業務の概略について説明する。組織活動についても説明する
15		19	1	海外における歯科衛生士	海外の歯科衛生士教育や業務内容を説明する
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	医歯薬出版		歯科医療倫理(医歯薬出版株式会社)	
平常点	%	歯科衛生士学総論			
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	歯科臨床概論		学年	1 年 52 期生	
担当者			期 別	後期	
単位数	2 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	4 時間× 8 回		専任・兼任	兼任	
実務経験	九州大学での学生教育経験を有する教員が、基本的な歯科の知識と、歯科衛生士の役割に関する授業を行う。				
一般目標 (GIO)					
<p>【概要】歯科衛生士として、保健・医療・福祉に関わることの意義を知る。また、専門職として求められていること、歯科衛生士業務の重要性を学び、今後の専門的授業に向けての基礎知識を習得する。</p> <p>【目標】・一般的な歯科臨床の流れ、ならびに歯科衛生士の業務内容の要点を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科専門領域の基本的用語を学び、歯、口腔の健康と疾患、異常について理解する。</li> <li>・多職種と連携して医療を行う重要性、ならびに医療人としての心構えを身につける。</li> </ul>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	5	14	3	歯科診療とは	社会に求められている歯科の役割について説明する。
2		14	4	〃	
3		21	3	歯科診療所・歯科診療所における業務	歯科衛生士のプロフェッショナリズムについて説明し、必要なコミュニケーション技法を述べる。
4		21	4	〃	
5	4	10	1	ライフステージと歯科診療・歯科診療で行うこと	各ライフステージにおける歯科の関わり方を列記する。
6		10	2	小児歯科	小児に対する保健指導や診療の特徴について説明する。
7	5	28	3	歯科矯正	不正咬合の特徴、矯正治療の必要性ならびに概要について述べる。
8		28	4	口腔外科	口腔外科分野での治療の流れを記述する。
9	6	4	3	歯科保存	う蝕の発生要因と発生機序を説明し、歯科保存分野における様々な治療方法を分類する。
10		4	4	〃	
11		18	3	歯周治療	歯周疾患を分類し、歯周疾患の発生要因とリスクファクターを列挙できる。
12		18	4	〃	
13		25	3	歯科補綴	歯科補綴の概要、固定性ならびに可撤性補綴装置の治療の流れについて説明する。
14		25	4	〃	
15	7	2	3	障害者歯科	スペシャルニーズが必要な患者の治療の重要性と、医療人として必要な配慮を述べる。
16	7	2	4	高齢者歯科	高齢者の口腔衛生管理について理解し、評価方法や管理方法を述べるができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	医歯薬出版株式会社「歯科衛生士のための歯科臨床概論」		クインテッセンス出版株式会社「日常臨床&チーム医療に活かせる 歯科衛生士臨床ビジュアルハンドブック」
		%			
		%			
		%			

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	歯科予防処置実習	学年	1 年 52 期生
担当者		期別	通年
単位数	2単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	2時間×4回/4時間×10回	専任・兼任	専任
実務経験			

一般目標(GIO)

- ・マネキン実習を通してシックルタイプスケーラーの手技を習得することができる。
- ・相互実習を通して患者、補助者、術者の立場を理解し、スケーラー操作(シックルタイプ)を習得することができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
16			4	マネキンにおけるシックルタイプスケーラー実技テスト(臼歯部)	指定した臼歯部を正しくスケーリングすることができる。
17			↓	↓	↓
18			2	評価	実技試験における <b>個人評価を系統立てる</b> ことができる
19			4	相互実習①(下顎前歯部)	歯面研磨・歯面清掃をスケーリングなどの手段と併せて実施することができる。
20			↓	↓	↓
21			4	相互実習②(上顎前歯部)	歯面研磨・歯面清掃をスケーリングなどの手段と併せて実施することができる。
22			↓	↓	↓
23			4	相互実習③(上顎右側臼歯部)	スケーリング時の歯面への適合を確認することができる
24			↓	↓	↓
25			4	相互実習④(上顎左側臼歯部)	スケーリング時の歯面への側方圧を相談することがで
26			↓	↓	↓
27			4	相互実習⑤(下顎右側臼歯部)	的確なスケーリング操作を実施することができる。
28			↓	↓	↓
29			4	相互実習⑥(下顎左側臼歯部)	的確なスケーリング操作を実施することができる。
30			↓	↓	↓
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	30%	最新歯科衛生士教本歯科予防処置講義			
実技試験	60%	歯科予防処置(新歯科衛生士教本)			
平常点	10%	デンタルハイジーン これですべてマスターブローピンク			
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

科目名	歯科保健指導総論			学年	1 年 52 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	4 時間× 4 回			専任・兼任	兼任
実務経験	大学病院での勤務経験を有する歯科医師が、臨床現場での経験を踏まえ、歯科保健指導の基礎を学ぶ授業を担当する。				
一般目標(GIO)					
歯科予防処置、保健指導の目的・概念を理解し、個人や集団を対象とする口腔保健管理の基礎知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	3	歯科予防処置論・歯科保健指導の概要	口腔の健康管理に関心を持ち、歯科予防処置・歯科保健指導の概念を述べる。
2		10	4	〃	歯科予防処置・歯科保健指導の具体的な内容を説明する。
3		17	3	健康の概念・予防の概念	健康の定義および日本における健康増進施策を述べる。
4		17	4	〃	予防の概念を理解し、疾病の予防レベルを分類・説明する。
5	5	20	3	地域歯科保健活動における健康教育	健康教育の概要を理解し、PDCAサイクルを具体的に図示、説明する。
6		20	4	〃	健康教育の方法を列記し、具体的に説明する。
7	6	3	3	地域歯科保健活動の実践例	学校保健における歯科保健指導の特徴を説明する。
8		3	4	〃	高齢者保健における歯科保健指導の特徴を説明する。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%	最新歯科衛生士教本		歯科衛生士国家試験対策②(医歯薬出版株式会社)	
小テスト	10%	歯科予防処置論・歯科保健指導論		歯科衛生士国家試験対策⑤(医歯薬出版株式会社)	
受講態度・出席	10%				
	%	医歯薬出版			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	歯科保健指導			学年	1 年 52 期生
担当者				期 別	通年
単位数	2単位(30時間)			講義・実習	講義
時間数・授業回数				専任・兼任	専任
実務経験	歯科医院での7年の臨床経験と3年間のケアマネージャーとしての実務経験を有する教員が、歯科保健指導に必要な講義・実習を行う。				
一般目標(GIO)					
患者の健康を維持・増進することを助け、歯科保健向上について指導・教育ができるように、1年次では歯科保健指導の概要を知るとともに、基本知識・技術を修得し、よりよい健康支援の能力を養うことができる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				歯科保健指導の概論	歯科保健指導の概要を説明できる 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。
2				行動変容の要素とそのステップ	対象把握に必要な行動変容のステップが説明できる。 行動変容の理論を健康信念モデルに合わせて説明できる。
3				健康の概念	健康の定義、健康戦略の概要を説明できる
4				歯垢の染色	染め出し剤の所要条件・種類・特徴等説明できる。 口腔清掃状態の把握、および評価ができる。
5				口腔清掃の基本知識	口腔清掃の分類・歯ブラシの基礎知識を理解することができる。
6				患者(対象者)からの情報収集	歯科衛生士アセスメントで歯科衛生士が収集する情報を説明することができる。
7				診療録・業務記録	歯科衛生士が収集する情報を理解することができる。
8				口腔の見方・オレリーのPCR	口腔の見方が理解できる。オレリーのPCRの診査部位・基準・計算方法がわかる。
9				指数(OHI・OHI-S)	口腔清掃の指数(OHI・OHI-S)を理解し計算することができる。
10				指数(PHP・PI、I)	口腔清掃の指数(PHP・PI、I)の診査部位・特徴・計算方法を理解することができる。
11				歯肉炎の指数(GI・PMA)	歯肉炎の指数の特徴・判定基準を理解することができる。
12				歯周疾患の指数(PI・PDI・CPI)	歯周疾患の指数の特徴・審査方法・評価基準を理解することができる。
13				指数復習プリント	オレリーのPCR・OHI・OHI-Sの計算を理解することができる。
14				その他の指数	BDR指標・反復唾液嚥下テストの判定基準と特徴を理解することができる。
15				歯磨剤について	歯磨剤の種類・剤型を理解できる。 フッ化物配合の歯磨剤の特徴と使用方法を説明することができる。
16				歯磨剤の基本成分・薬用成分	歯磨剤の基本成分と薬用成分の組成と作用を説明することができる。
17				洗口剤について	洗口剤の特徴と使用方法、成分について説明できる。
18				口臭について	口臭の国際的な基準・原因物質・測定法・治療法を説明することができる。
19				補助的清掃道具 デンタルフロス	デンタルフロスの適応・使用方法・長所・短所・種類と性質を説明することができる。
20				補助的清掃道具 歯間ブラシ・タフトブラシ	歯間ブラシ・タフトブラシの使用目的・特徴・使用方法を理解し説明することができる。

21			補助的清掃道具 舌ブラシ・歯間刺激子・ジェット水銃	舌ブラシ・ジェット水銃の種類と特徴を理解し説明することができる。
22			補助的清掃道具 電動・音波・超音波歯ブラシ	電動・音波・超音波それぞれの特徴を理解することができる。
23			補助的清掃道具 義歯用ブラシ・介護に必要な口腔ケア用品	義歯・粘膜ブラシの特徴とし説明用方法を理解することができる。
24			補助具総まとめ・復習	各種補助具の特徴をまとめ理解することができる。
25			不適切な口腔清掃による為害作用	不適切な使用法による為害作用を理解し説明することができる。
26			地域保健活動の進め方	地域歯科保健における健康教育や保健指導の概要を説明できる。また地域歯科保健活動事業における歯科衛生士の役割を説明できる。
27			歯科衛生士介入(妊産婦)	妊産婦の一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科保健行動を説明することができる。
28			歯科衛生士介入(妊産婦の栄養)	妊産婦の特徴に合った必要な栄養素とその摂取基準を説明することができる。
29			歯科衛生士介入(新生児期・乳幼児)	新生児期・乳児期の一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科保健行動を説明することができる。
30			歯科衛生士介入(新生児期の栄養)	離乳期から幼児期における機能発達を理解し説明することができる。また母乳と人工乳の比較を説明できる。
31			歯科衛生士介入(乳幼児期の栄養)	乳幼児期の特徴に合った必要な栄養素とその摂取基準を説明することができる。また母親に対し食生活指導を実施することができる。
32			歯科衛生士介入(幼児期・小学校)	歯と口の健康週間で、各ライフステージの口腔内の特徴を理解し、ブラッシング指導を行うことができる。
29				
30				
31				
32				
評価基準			教科書	参考書
筆記試験	75%	歯科予防処置論 歯科保健指導論 (医歯薬出版)		歯科衛生士のための摂食嚥下・口腔保健管理
平常点	5%			保健生態学・高齢者歯科・障害者歯科・小児歯科・セルフケアの本
小テスト	20%			ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策⑤(医歯薬出版)
	%			改定歯ブラシ辞典(学健書院)

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	歯科保健指導(実習)		学年	1 年 52 期生	
担当者			期 別	通年	
単 位 数	1単位(30時間)		講義・実習	講義・実習	
時間数・授業回数	2時間×10回・4時間×3回		専任・兼任	専任	
実務経験	歯科医院での7年の臨床経験と3年間のケアマネージャーとしての実務経験を有する教員が、歯科保健指導に必要な講義・実習を行う。				
一般目標 (GIO)					
<p>歯科衛生士の業務のひとつである歯科保健指導は、歯科保健に関連する習慣・行動により、自らの健康維持・増進することを助け、歯科保健向上に役立つよう指導・教育を行える様、1年次では歯科保健指導の概要を知り、基本知識・技術を修得することにより、よりよい健康支援の方法を学びその能力を養うことを目的とする。また、指導する対象により健康を維持する方法を選択し、どのように提供するかを考えることができる様、まずは自分の口腔内の清掃ができることを目的とする。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				コミュニケーショントレーニング	自分を知り、相手を知る努力をすることができる。
2				毛先を使ったブラッシング法	毛先を使ったブラッシング法の特徴を説明・実施することができる。
3				脇腹を使ったブラッシング法	脇腹を使ったブラッシング法の特徴を説明・実施することができる。
4				ブラッシング口頭試問	各種ブラッシング法を模型を使って実施し、特徴を述べることができる。
5				ブラッシング口頭試問	口腔清掃の基礎知識・染め出し(復習プリント)
6				市販の歯磨剤検討実習	現在使用中の歯磨剤の成分を調査し説明することができる。
7				洗口剤検討実習	洗口剤の種類・効果・成分・使用方法を理解し、使用感等を述べるすることができる。
8				デンタルフロス(指巻法)実習	デンタルフロスの指巻法を自分の口腔内で使用することができる。
9				各種デンタルフロス検討実習	各種デンタルフロスのを自分の口腔内で使用し、特徴をつかむことができる。
10				補助具検討実習	各種補助具の使用することで特徴をつかむことができる。
11				ブラッシング・補助具口頭試問	各種ブラッシング法と補助具を模型を使って他者に説明することができる。
12					
13				100%磨き検討実習	口腔内で安全で効率的な補助具の使用とブラッシングを修得し、自己の口腔管理についての理解を深めることができる。
14					
15				患者指導用チャート説明・作成	患者さんに口腔内の大切さを認識させ、健康の維持は自分でしなければならないという動機づけを目標に、流れに沿って資料を収集し患者指導用のチャートを作成することができる。
16					
17				初診時間診法実習 術者磨き実習	他者に対して染め出し・記録し、歯ブラシと補助具を使用して清掃することができる。
18					
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	50%	歯科予防処置論 歯科保健指導論		歯科衛生士のための摂食嚥下・口腔保健管理	
平常点	10%	(医歯薬出版)		保健生態学・高齢者歯科・障害者歯科・小児歯科・セルフケアの本	
チャート	30%			ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策⑤(医歯薬出版)	
口頭試問	10%			改定歯ブラシ辞典(学健書院)	

平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	栄養指導			学年	1 年 52 期生
担当者	山崎 京子(実習補助 大屋恵美子)			期 別	後期
単位数	2単位(+調理実習)			講義・実習	講義・実習
時間数・授業回数	2時間 × 15回			専任・兼任	兼任
実務経験	筑紫女学園大学・精華短大・福岡市医師会看護学校・筑紫医師会看護学校・アカデミー看護学校・糖尿病外来の栄養指導の経験を有する教員が、歯科衛生士に必要な栄養学について講義する				
一般目標(GIO)					
<p>栄養学は健康に生きていく上での生命維持に最も深い関わりを持っている。栄養素の消化・吸収・代謝及びその調整を中心に学ぶ教科である。食生活上の改善を必要とする対象者に対して施す具体的な指導方法を熟知することにある。食品のう蝕誘発性及び歯科臨床の場において栄養指導の必要性について学ぶ。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	7	24	1	食生活と疾患との関係	現代の食生活の問題点について
2	9	4	1	栄養素の消化・吸収	栄養の基礎知識について
3		11	1	食事摂取基準	エネルギーの必要量の求め方、脂肪エネルギー比率
4		18	1	基礎代謝	基礎代謝量の求め方及び影響する因子
5		25	1	栄養素の働き	糖質について
6	10	2	1	栄養素の働き	タンパク質について
7		9	1	栄養素の働き	脂質について
8		16	1	栄養素の働き	ビタミンについて(欠乏症等)
9		23	1	栄養素の働き	ミネラルの作用と欠乏、過剰症など
10		30	1	水の栄養的意味	働き・代謝
11	11	6	1	食物繊維の栄養的意味	働き・摂取量と給源
12		13	1	食生活と健康	食生活の変遷と疾患構造の変化について
13		20	1	食生活改善の取り組み	食事環境、計画
14		27	1	ライフステージ別の栄養	成長期・成人期・高齢期の栄養調理の特性
15	12	4	1	食べ物と健康	食品成分表の分類、食べ物の物性について
16	1	29	1・2	調理実習(1組)	バランスの取れた食事の組合せと嚥下低下者における調理形態の食事
17	2	5	1・2	調理実習(2組)	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%		人体の構造と機能 栄養と代謝 (医歯薬出版)		
平常点	20%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(13:00~14:30)

4限目(14:40~16:10)



平成31年度 九州医療専門学校 歯科衛生士科

科目名	感染予防学		学年	1 年 52 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	4 時間× 4 回		専任・兼任	兼任	
実務経験	医科総合病院の勤務経験を有する口腔外科専門医が、歯科における感染対策の現状と問題点を講義する				
一般目標 (GIO)					
講義, 実習を通して, 標準予防策を理解し, 基本的な感染対策を習得し実践できるようにする. また, 歯科臨床において問題となる全身状態や感染症を理解し, 配慮すべき事項を説明できる, 院内の整理整頓をおこない, 医療廃棄物を適切に処理できることを目標とする.					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	3	序論/感染予防対策の基本/感染のハイリスク患者	感染対策の必要性和歯科衛生士の役割を認識する.
2		11	4	"	歯科診療において問題となる代表的な疾患と感染のハイリスク患者を理解する.
3		18	3	歯科診療における感染予防対策の基本と実際/手洗い・グローブ・ガウン装着実習	標準予防策を理解し, 実践できる.
4		18	4	"	手洗い実習, グローブ, ガウンの装着実習をおこない, 清潔操作の基本を習得する.
5		25	3	滅菌・消毒・洗浄の基本と実際	器材の滅菌法, 再処理法を理解する.
6		25	4	"	各種消毒薬の特徴と正しい使い方を理解する.
7	5	9	3	アネティと環境整備/医療従事者の感染予防対策/廃棄物の処理/歯科ユニットのメンテナンス/総括	医療従事者の感染予防対策を知る. また, 口腔ケアの重要性を認識する.
8		9	4	"	環境整備と廃棄物の処理法について理解する.
9					
10					
11					
12					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	80%	医歯薬出版		絵でみる 色でわかる 歯科の院内感染防止対策 (月間保団連 臨時増刊号 No.1272 2018)	
平常点	20%	新・歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄			
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (13:00~14:30)

4限目 (14:40~16:10)